

# 5-5

## 3年目職員からのメッセージ

同期同士の助け合いから生まれた理想の先輩像

特別養護老人ホーム ゆうあいの郷 六月

発表者：島 美穂	共同研究者：小河 伸光
所在地：東京都足立区六月1-6-1	共同研究者：水野 初美、竹田 優
TEL：03-5242-0303	E-mail：rokugatsu@seifuukai.or.jp
FAX：03-5242-0306	

今回の発表の施設 またはサービスの 概要	定員：50床（他短期入所5床） 平均年齢85.6歳 平均介護度 4 従来型個室：6室 ・ 多床室（2人部屋：2室、4人部屋：10室） 2階フロアーを2班（各2グループ）に分け、グループ担当制で援助している。
----------------------------	---

<p>〈取り組んだ課題〉</p> <p>平成19年に入職した私達4人が、3年目を迎え、今年度、新人職員のトレーナーとなった。自分達が今まで仕事を続ける原動力となった物は何か振り返り、これからトレーナーとして新人職員が仕事を続けていける指導をどのように展開すれば良いかを考えた。</p> <p>〈具体的な取り組み〉</p> <p>①自分達が新人だった頃、どんなことで悩んでいたか、 「あの頃の自分を振り返った」</p> <p>②悩みや困った事を克服できたのはなぜか、自分達が続けてこれたのは、なぜかを考えた。</p> <p>③今、自分達が先輩として、トレーナーとして何ができるかを考えた。</p> <p>※ それぞれのテーマについて、書き込みカードやアンケートなど活用して、意見や情報を収集した。</p> <p>④トレーナーとして新人職員指導の場面で③の結果得られた項目を実践してみた。</p> <p>（項目）・アンケート結果をふまえた理想の先輩像を意識し後輩と関わる。 ・「何でも書いてみよう」シートの活用</p> <p>↓</p> <p>実際の指導の中で、実践できた点と上手くいかなかった点を話し合った。</p>	<p>〈活動の成果と評価〉</p> <p>①「何でも書いてみよう」シートを活用し、どのような結果がでたか話し合った。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・当時自分達が先輩や上司に対して抱いていた思い、「悩んでいる時、困っている時に話を聞いてほしい」等は、現在は自分達が後輩から望まれる立場になってきているのだと再確認した。</li><li>・普段の関わりだけでは知りえない一人ひとりの思いを確認することが出来た。</li></ul> <p>②法人内統一「新人職員職場内研修簿」に基づく面接を実施してみた結果を話し合った。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・互いにゆっくりと今までの振り返り、それぞれの思いを伝え合う時間を設けたことにより、良い点や課題等がより明確となり確認し合えた。</li><li>・指導される側から、指導する側へと立場が変わり、相手に物事を伝えることの難しさを改めて実感した。</li><li>・何気ない言葉一つでも、相手を深く悩ませてしまったり、逆にやる気を引き出すきっかけとなったりと「伝える側」となる私達は重要な役割を担う立場であるということを確認した。</li></ul> <p>〈今後の課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・同期入社の中でも一人ひとり個人差がある為、その人にあったアプローチの仕方や段階にそって指導していけるようになる。</li><li>・注意するだけでなく、良い所は具体的に口に出してほめるようにする。</li></ul>
---	--

【メモ欄】